

This **definition**, **however**, does not clearly **separate** drugs / **from** [what we usually think of as food].

= 前文の内容 逆接 関係代名詞 what 節

All drugs become poisons **in** large amounts, / and many poisons are useful drugs **in** **carefully controlled** amounts.

対比

✓ 内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を, 誤っていれば×を記入しなさい。

1. There is a clear difference between drugs and foods. ()
2. Drugs do us good, while poisons do us only harm. ()
3. If you take too much of a drug, its effect is similar to that of a poison. ()
4. Alcohol can be categorised only as a drug. ()

❖ 覚えておきたい表現

■ separate A from B 「A と B を区別する」

ℓ.2 : This definition, however, does not clearly **separate** drugs **from** what we usually think of as food. 「しかし, この定義は, 薬と私たちが通常食物とみなしているものとははっきりと区別してはいない。」

• separate A from B は「A と B を区別する」という意味。

Ex. You have to **separate** what you should do **from** what you want to do. 「あなたは自分がすべきことと自分がしたいことを区別しなければならない。」

• as ~ 「～として」。

Ex. He accompanied us **as** an interpreter. 「彼は通訳として我々に同行した。」

• what we usually think of as food : 関係代名詞の what で導かれる節は「…するもの [こと]」の意味になる。

■ in + 名詞 「～の状態」

ℓ.5 : **in** large amounts 「大量に」: 反意語は in small amounts. 後ろの in carefully controlled amounts 「注意深く調整された量では [量を注意深く調整すれば]」と対比を成している。前置詞 in は「～の状態」という意味を表す。

Ex. You can buy kitchen towels **in** rolls. 「キッチンタオルはロールの状態を買うことができる。」

■ A, B, or C? 「A か B かそれとも C か」

ℓ.7 : a food, a drug, **or** a poison? 「食物なのか, 薬なのか, それとも毒なのか」: 選択肢が3つある場合はこの形になる。選択肢をカンマで区切り, 最後の選択肢の前に or を入れる。選択肢が4つの場合は, C までをカンマでつなげ, 最後に, or D? とする。

Ex. Are you a teacher, a student, **or** a parent? 「あなたは先生か, 生徒か, それとも親御さんですか。」

■ depend on ~ 「～次第だ; ~による」

ℓ.8 : It can be any of the three, **depending on** how we use it. 「私たちの使い次第で, アルコールは3つのうちのどれにでもなりうる。」

• depend on ~ 「～次第だ; ~による」: depend を使った熟語である。ここでは分詞構文になっている。on の後に名詞節 how we use it 「それをどう使うか [私たちの使い方]」が続いている。

Ex. The success of the project will **depend on** who is in charge. 「プロジェクトの成功は誰が担当するかにかかっている。」

• how we use it 「私たちのそれ (= アルコール) の使い方」: the way we use it とも言える。the way how ~ は不可。

整理しよう! *段落要旨・構造*

薬の定義

「薬とは身体や精神に影響を及ぼすもの」と定義される。

- ◆ ℓ.3 **however** 「しかし: 逆接」
 - この定義では, 「薬=食物」にもなってしまう。
 - ◆ ℓ.5 **also** 「また: 列挙・追加」
 - この定義では薬と毒の区別もはっきりしない。
- (主張1)

(主張2)

- 薬=大量に使うと毒になる ⇔ 毒=量に注意して使えば薬になる
- ◆ ℓ.7 **for instance** 「例えば: 例」
- アルコールは, 使い方次第で食物・薬・毒のそのいずれにもなりうる。

背景知識

●薬の作用を絞り込むことの効果

経験に依拠した創薬から, 体系的知識を基に症状に応じた薬効を発揮する薬の調剤ができるようになったのは, 17世紀以降と言われる。しかし, そのようにして調剤された薬には副作用もあり, 取り扱いによっては人体に有害なものとなる。こうした^量加減の難しさは, 例えば, がん治療薬の強い副作用などに見られるし, 身近な例では, 熱や咳などの症状を抑えるための風邪薬を飲むと, 眠くなったり胃腸障害を招いたりすることなどに見られる。

一方で, がん治療に絞って見てみると, 副作用の減少を狙って新たな薬が開発されてきている。近年ではヒトの細胞ががん化することで起こるがんに対処するため, がん細胞の周りの正常細胞を傷つけずにターゲットを絞って攻撃する「分子標的薬」が注目されている。これは, がん細胞の増殖や転移に必要な分子に限ってそれらを押さえ込むものである。そうすることで, 従来の投薬よりも副作用を減らして治療効果を上げることができるとされている。

【深めたい人に】: 山崎幹夫編, 毒と薬研究会著『面白いほどよくわかる毒と薬』(日本文芸社, 2004年)